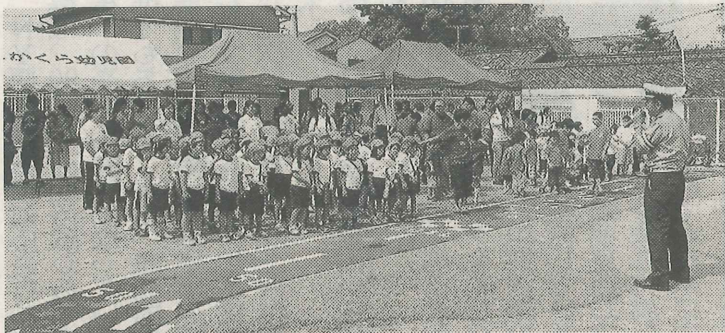


園児と障害児 交通ルール学ぶ



名古屋大須RCが催した「ふれあい交通安全教室」

名古屋大須RCが安全教室

「幼い子供たちを交通事故から守ろう」と、名古屋大須ロータリークラブ(会長＝鬼頭茂成・伏繁商店代表社員)は社会奉仕、職業奉仕、新世代奉仕の3

触れ合いで深まる相互理解

委員会合同活動として「ふれあい交通安全教室」を開くと児童デイサービス「愛林」で、約100人の子供たちと一緒に通う障害児ら40人と、ちん交通安全防止のルールを学ぶなど学んでもらった。子供たちは運動場で熱田警察署交通課の警官から交通安全防止のための規則やルールを学んだ後、運動場に設けられた心から感謝しています」

「ふれあい交通安全教室」は名古屋市熱田区尾頭町の高蔵幼稚園運動場で催された。子供たちは運動場で熱田警察署交通課の警官から交通安全防止のための規則やルールを学んだ後、運動場に設けられた心から感謝しています」



サーキットで婦人警官から「自転車は左側通行」を学ぶ子供たち

に設けられた心から感謝しています」園児の交通指(桑山照代園長)と感謝していた。専用サーキットで自転車愛林会でも「障害を持つ子供たちにも交通事故防止の教育は大切なことだ。安全走行のため、園児たちと触れ合えることも大変ありがたいことである。名古屋大須ロータリークラブの皆さん方から感謝しています」(林順治代表)は教育用サーキットで、同クラブでは「交通事故の防止を図るためには幼少期からの安全教育が大きな効果があると考え、教育用サーキットを持つ高蔵幼稚園と熱田警察署の協力を得て体験型の交通安全教育を実施した。また健常児と障害児の触れ合いを通してお互いの理解を深めてもらいたいと考えた」(鬼頭会長)としている。